

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791500020		
法人名	有限会社 かるすと		
事業所名	グループホーム もとぶ		
所在地	沖縄県国頭郡本部町豊原262番地1		
自己評価作成日	令和5年 9月 25日	評価結果市町村受理日	令和6年 5月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4791500020-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和6年 2月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた当事業所は見晴らしがよく遠くは八重岳が望め室内は木目を多く使い明るく暖かな落ち着いた環境の中で入居者様と裏庭で育てた花を見たりバナナを収穫したり海を眺め日光浴を行い天気の良い日は散歩やドライブに出かけたりと、恵まれた環境で日々落ち着いて過ごしていただけるよう1人1人のペースを大切に家庭的で楽しく安心して生活できるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は公道から少し中に入った静かな環境にあり、法人が経営する同敷地内に設置されたグループホームに入居している知人とトランプや三線を弾くなどして交流が図られている。職員は、「自分がされて嫌なことはしない、されてうれしいことをする」という思いで、利用者1人ひとりの「NGワード」を収集し、話題にしないよう配慮し、利用者に喜んでもらえるような支援を心がけている。利用者が話しやすいように、地元出身の職員が方言での会話も対応し、誕生会は誕生日当日に開催している。入浴や排泄支援は、同性介助を基本として対応している。食事は3食とも職員が調理し、朝のお茶うけに毎日黒糖が提供され、ゆしどーふや煮物、刺身も毎月提供されるなど、利用者の要望により献立を工夫し、居室で食事をしたいという利用者にも対応している。職員も一緒に同じ食事を摂っている。服薬支援マニュアルを整備し、具体的な手順に沿って誤薬のない安全な服薬支援を継続している。かかりつけ医と調整して減薬に取り組み、3人の利用者が薬を減らすことができている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内に掲示している。また名刺の裏にも記載している。	理念は4つの柱からなり「尊厳を第一に利用者に寄り添う」他、3項目を掲げている。管理者が常に心掛けていることは「家族や地域社会との関係を継続する」という理念を大切にすることで、毎月、「もとぶメール便」を家族に郵送するとともに、家族とラインでやり取りを行い、利用者の近況を報告したり、テレビ電話で本人と家族が話をすることで安心感につなげ、「支え、支えられる関係」がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防のため交流などの活動は行っていない	自治会に加入し、地域の行事や情報は広報紙で把握している。旧盆の行事である青年会によるエイサーが園庭で行われ、職員と一緒に見学している。毎週木曜日に訪問販売のパン屋さんが来るので、利用者は好きなパンを購入するのを楽しみにしている。コロナ禍以前は公民館での食事会に参加していたが、現在は中止となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防のため交流などの活動は行っていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため運営推進会議未開催	運営推進会議の構成員は利用者、家族、地域代表として区長、社会教育委員、知見者、町職員となっている。今年度は2回の開催で職員のみの実施となっている。議事録は出席委員の確認を行うとともに、書類の整備に期待したい。	令和5年5月からコロナの5類移行に伴い運営推進会議も対面開催が基本であり、臨時的な取り扱いがなくなっているため、年6回の定期的な開催が望まれる。また、人事異動等で変更のある場合は、新しい委員の任命を行うことが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染予防のためほぼ電話やメールでのやり取りになっている	町役場とはコロナ禍のため、この1年は電話でのやり取りとなっている。コロナ抗原検査キッドの支給について役場と調整が行われている。生活保護の入居者の利用料の滞納の件で役場とやり取りをし、管理していた親族と話し合い、保護費の管理を事業所で行うようになった事例がある。管理者は町主催のケアマネジャー会議に参加し情報を得ている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	書籍や印刷物などで身体拘束での弊害を職員に伝え共通認識をとれるようにしている。	身体拘束をしない取り組みについては「身体拘束ゼロの手引き」をマニュアルとして勉強会を実施している。身体的拘束の適正化のための指針は確認できなかった。身体的拘束適正化検討委員会は直近1年間はコロナ禍で開催されていない。玄関は施錠せず、鈴の設置で利用者の行動を把握し対応している。身体拘束を行っている利用者はいない。	身体的拘束の適正化のための指針の整備、及び身体的拘束適正化検討委員会の3か月に1回の定期的な開催が望まれる。会議録は運営推進会議と一体となっているので、別に会議録を作成することが望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	書籍や印刷物などで職員が理解し日中は出入りは自由に行えるようにしている、1人で出た際は安全に配慮し必ず職員が付き添いを行っている。	虐待防止に関する研修会を年2回実施している。利用者に対する言葉遣いで「待って」を確認した時は、個別に職員に注意を促すとともに、職員会議で全員に注意している。虐待防止の指針の作成や委員会の設置、及び虐待防止のための担当者の設置はまだとなっているが、経過措置期間内に対応することを期待したい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している入居者はいないが、役所にて制度についてアドバイスをいただいたり情報を交換したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書と重要事項説明書を読み合わせを行って説明している。質問や不安に思っていることなどに答えながら理解と同意を頂き契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には意思、希望の確認、家族は面会時や運営推進会議などで意見や要望を聞くようにしている。職員や代表者と検討し運営に活かしている。	利用者から黒糖や焼き芋が食べたいとの要望があり提供している。家族とはライン交換を行う中で要望や意見を聞くとともに、日頃の様子をラインで動画を送るなど支援している。家族から「刺身は家ではマヨネーズ醤油で食べていた」との情報を受けてマヨネーズしょうゆを提供している。意見箱は玄関に設置されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や日中のミニミーティング毎月のミーティング時に職員から出た意見提案を生かせる様に職員で共有検討を行い運営に反映させている。	運営に関する要望等は毎日のミーティングや週1回の職員会議の中で聞いている。休日等の調整はなるべく職員の意見を聞いている。職員意見を反映し、お風呂マットを滑り止めのついたものへ変更、温湿度計の購入、重たい陶器の食器を軽いメラニン食器へ変更している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の健康診断の実施や資格所得に向けて、時間的支援や子育て中の職員には子供の発熱や体調不良時には早退したり休みを取れるようにしたり、職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則が整備され、年休の5日取得義務や健康診断の義務、給与規程等が定められている。資格取得について受講料の半額・全額負担が実施されている。ハラスメント対策(指針やマニュアルの作成、研修の実施、相談窓口と担当者の設置、就業規則への記載等)が義務化されているが、未整備となっている。健康診断の受診の確認ができなかった。	ハラスメント防止対策について指針やマニュアルの作成、研修の実施等による職員周知、相談窓口と担当者の設置等を整備することが望まれる。健康診断(年1回及び夜勤者は年2回)の実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染予防のため研修会などの活動は行っていないが面談やOJTなどを通し育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染予防のためほぼ電話やメールでのやり取りになっている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学と相談受付、入所後に面談を行いその方の生活状態を把握する様に努めご本人が求めていることや不安を理解することを心がけている		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナウイルス感染予防のため見学など短時間でのたいおうになっているため入所前後は頻回に電話やメースなどで連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他事業所のサービスを紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯、掃除など入居者の得意なことを伺ったり、教えて頂きながら力を発揮していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や要望をご家族へ電話連絡やメールなどで報告している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防のため希望者にはテレビ電話で面会を行っている	馴染みの関係継続については、入居時のアセスメントや家族からの聞き取りで把握している。同敷地内にあるグループホームに入居している知人とトランプや三線を弾くなどして交流が図られている。昨年、昔の知人が千葉県から面会に来てくれたことがあった。コロナ禍以前には「FMもとぶ」に勤務している同級生が面会に訪ねて来たこともある。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間での相性を見極め、会話を楽しめるように席決めを行い孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族が次のサービスに継げる支援をしたり、必要に応じての相談を受けフォローするなど、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に希望要望を本人と家族から聞き取りを行い入所後も日常会話などから本人の暮らしの希望、要望を聞き本人の意向を把握するように努めている。	思いや意向の把握は、アセスメントや日頃の利用者が発する言葉の中から把握に努めている。方言しか話せない利用者に対しては方言を話せる職員が対応し、思いや意向を確認して職員間で情報を共有している。居室で食事をしたいとの要望がある利用者には意向を尊重し居室での食事提供をしている。把握が困難な場合は表情等から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に私の記録やジェノグラムを記入して頂き、、友人、知人より話を伺い生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行状態、バイタル測定、食事摂取動作会話などを通して把握に努めている		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話の中から本人の希望や意向を聞き面会の折りに家族の希望や要望を聞き送りやミーティングでスタッフから意見を聞いている。	介護計画は計画作成担当者が利用者や家族の意見・要望を確認して介護職員から聞き取り作成している。長期目標と短期目標が記載されているが、モニタリングが実施されていないため目標達成状況が不明となっている。介護計画は、利用者の同意はあるが、代理人の同意が確認できなかった。利用者の状態変化による随時の見直しが確認できなかった。	①介護計画のアセスメントから始まる一連の流れに沿った短期目標のモニタリングの実施が望まれる。 ②介護計画の同意欄に代理人の同意署名の記載が望まれる。 ③退院等による状態変化の際は、随時の介護計画の見直しが望まれる
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングでの報告や申し送りを活用し情報の共有を行っている、個別記録を通し介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々希望や意向本人の状態に合わせたケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防のため地域行事には参加していない		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の訪問診療時、主治医に病状や不安などの状態の報告し適切な医療を受けられるように支援している。歯科や精神科は個別で受診している	利用者は全員、馴染みのかかりつけ医を受診し、家族等の希望で訪問診療に変更する際もかかりつけ医を継続している。町内の病院での定期や他科受診は職員が支援し、町外の病院や専門医受診の場合は家族対応としている。受診結果は、家族に電話やラインで報告し、職員は毎日のミーティングやグループラインで共有している。利用者は特定検診を受けたり、定期的な血液検査や必要時の検査を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入院時には面会へ行き、看護師や医師に話しを伺うようにしている。退院時のカンファレンスも出席するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活や服薬・身体状況の報告を行っている。面会時は必ず医師や看護師との情報交換を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や面会時に、家族と話し合いを行い終末期の希望を聞き取りを行っている。現在施設での看取りはない。	重度化や終末期の対応については、契約時に指針を通して説明し、同意書を取っている。入居後は、年に1回程度家族等の意向を再確認し、状態変化に応じて主治医からの説明や確認も行っている。看取りの実施については、隣接するグループホームと合同で研修を実施し、方針の共有や体制づくりに努めている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法など消防署で消防職員より講習を受けたり、定期的に施設において再確認を行っている。	応急手当や急変時の対応、夜間帯の対応等については、対応マニュアルやフローチャートを整備し、職員は理解している。心肺蘇生法の講習を全職員が受講している。事故発生後は、初期対応の後、報告書を作成し、再発防止の改善策について勤務職員で話し合い、介護記録やライン等で周知している。事故報告書に、事故の種類の記載欄がない。事故報告書の様式の見直しと再発防止の検討会議の議事録の整備に期待したい。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	定期的に利用者とともに避難訓練を行い、方達にも協力してもらっている。避難時に備え、備品なども点検し準備している。コロナウイルス感染予防のため研修会や訓練などはできていない	災害対策マニュアルを整備し、昼夜想定避難訓練を年に2回以上実施している。実施報告書には参加した利用者や職員の感想もまとめられ、利用者の「いさを思い出した」のコメントもあった。近隣住民には、アナウンスでお知らせと協力呼びかけをしている。防災設備点検を定期的実施している。備蓄は利用者と職員の3日分程度の水や食料を用意し、懐中電灯やガスコンロ、オムツ等を備えているが、備蓄リストは作成されていない。感染症発生時のBCPは作成済みで、災害発生時のBCP、感染症の予防やまん延防止の取り組みはこれからとしている。備蓄リストの作成や法改正に伴う取り組みに期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導声かけや入浴などできるだけ同性職員が行っている。カーテンを閉めるなどプライバシーの確保に努めている、普段の会話でも人生の先輩として話しかけをおこなっている。	職員は、「自分がされて嫌なことはしない、されてうれしいことをする」という思いで、利用者に喜んでもらえるような支援を心がけている。利用者が話しやすいように、地元出身の職員が方言での会話も対応している。利用者1人ひとりの「NGワード」を収集し、話題に配慮している。入浴や排泄支援は、同性介助を基本として対応している。誕生会は誕生日当日に開催し、本人の希望で用意したジュースや焼き芋等も家族の協力を得て提供している。契約時に個人情報保護方針や利用目的を説明し、同意書を取っている。方針等は事業所内で公表している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた気持ちで接し話やすい環境を作りひとり1人に合わせ自己決定ができる話しかけをおこなっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が強制することなくその日の入居者のペースを大切にテレビを鑑賞したい方居室で休みたい方各々のペースを大切にしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ娘と知人と出かけたり移動美容室に事業所に来てもらい、希望に合わせたカットや毛染めをしてもらうなどの支援を行っている。			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや準備ができる方は職員と一緒に手伝ってもらいその人の力を発揮していただいている出来ない方にもテーブル拭きなどを手伝ってもらっている。利用者と職員と一緒に食事をして好みや調理法など話している。	食事は3食とも職員が交代で作っている。法人から配達された食材をもとに献立を作成し、利用者の希望によって適宜食材を買い足し、菜園の野菜も活用する等工夫している。食事は複数の小鉢に盛り付けて提供し、要望の多い刺身も毎月定期的に提供し、食器を軽く持ちやすいものに変え、食事のメニューも説明している。居室で食事をしたいという利用者にも対応している。利用者はもやしのヒゲ取りやお茶パック作りをしている。職員も同じ食事を一緒に摂っている。調査当日、食欲をそそるおいしそうな香りが漂っていた。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みの飲み物食べ物を提供したり食事時間をその日の本人のペースに合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、声かけで行う方や歯ブラシやコップなどを準備すると行う方など、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを支援している。歯科受診で診てもらい治療している。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり1人の排泄パターンを把握し日中は居室トイレや共同トイレにて排泄を行っている	排泄については、利用者の状態や能力に応じた排泄支援、現状維持の二つを目標として対応することとしている。6名の利用者にはトイレでの排泄を支援し、オムツ使用の方も支援している。利用者1人ひとりの排泄パターンを把握しつつも、排泄チェック表を確認して声かけをし、排泄時はドアを閉めて支援している。共用トイレ(2か所)以外に、トイレを設置した居室が3室ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩を行ったり、便秘予防体操を行っている。食事に関してはヨーグルト、牛乳の提供や繊維食提供を行っている。便秘が続くようなら主治医に相談している		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助はできるだけ同姓介助で行っている。入浴曜日決まってはいるが、本人の希望で曜日を変えたり時間をずらしたり個人の希望を取り入れている。	入浴は週3回、午後に支援している。利用者の「1番に入りたい」や「熱いお湯がいい」、「ぬるめのほうが好き」等、1人ひとりの要望に対応している。同性介助を基本とし、脱衣時はタオルをかける等羞恥心に配慮している。1対1で職員と昔話をしたり、民謡や懐メロを聞きながら入浴をする利用者、固形石鹸を使う方、入浴後に化粧水や乳液を使う利用者がいる。本人の承諾を得て、職員が耳掃除もしている。脱衣室には、イスや手すりが設置され、ヒーターで温度調整をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が休みたい時に休息され入居者の生活リズムを大切にしている使い慣れた寝具を使ってもらい 気持ちよく眠れるよう支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬情報をファイルし職員が把握できるようにしている薬の変更があった場合はグループラインで連絡る。	薬情報ファイルをまとめ、薬の変更や増減等については、管理者から職員へ周知している。具体的な手順の入った服薬支援マニュアルに沿って支援し、誤薬のない安全な服薬支援を継続している。減薬について医師と相談して減薬した利用者が3人いる。減薬前後の状態等を家族にもこまめに報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや洗濯干し、お茶葉の袋づめや野菜のカット、チラシでのゴミ袋づくりなど 個人の特技を活かし役割を持っていたいでいる、また、ドライブや有線放送で懐メロや民謡など流して楽しみの時間を支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防のため外出支援もドライブが多い	利用者は事業所周辺の散歩をし、花壇の花や菜園のパパイヤ等を眺めたり、天気の良い日に屋外で体操をすることもある。隣のグループホームでトランプ等のゲームや踊りを楽しむ機会がある。町内・外のドライブを実施し、オクラレカやコスモス、桜等の花見に出かけている。地域のお店で好きな黒糖を買ったり、町の商品券を活用して買物をする利用者、旧盆に親族とドライブをした利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が金銭管理が難しい為家族や職員が管理している、希望があれば職員が付き添い支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和6年 4月22日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が連絡を取りたい時に自由に電話を使用できるように支援している。ご家族にも入居契約の際本人の希望があれば電話を行う旨を伝えている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入れ替え時に外気温との気温差が変わらないように注意しその際に不快でないかの確認を行っている。また音に敏感な方にはなるべく大きな音を立てないように配慮している	共用空間は、感染予防や乾燥対策も兼ねて管理できる温湿度計を設置している。テレビやラジオの音量等に配慮しながら、利用者が民謡や懐メロを聞いたり、踊りを楽しんだり、馴染みの「FMもとぶ」を聴く等、思い思いに過ごせるようにしている。手すりは、柔らかい素材のマットを巻き、つかみやすいようにしている。廊下の両サイドが非常口となっており、外の景色を眺めることができ、出入口の近くにイスを置いて、1人でくつろげるスペースとなっている。玄関入口にもイスを置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士がお互いの部屋へ行き来したり、楽しくゆっくり会話が出来るようにお茶やお菓子を用意している。また1人になりたいと感じさせる場合は必要以上に深追いせず、入居者のペースに沿うように心がけている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や飾り物など本人の好みやご家族から本人が使い慣れた物を持ってきていただき本人主導で配置を行っている。掃除で居室に入居する際配置が変わらないよう注意をしている。	居室にはベッドやエアコン、タンス、洗面台、ナースコールが設置され、トイレ付きの部屋が3室ある。利用者は寝具や時計、アルバム、洋服、クッション、化粧品、テレビ、ラジオ等を持ち込んでいる。孫の写真を飾ったり、自分で模様替えをする利用者がいる。端っこの部屋は淋しいからとリビング近くの居室への変更を希望した利用者があり、対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやシャワー室の場所、入浴中と明記している。居室入り口に利用者の名前を張り出し自分の部屋がひと目でわかるようにしている、ベッドの高さや位置等もその人にあわせ調整している		